
異能者の非日常

毬藻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異能者の非日常

【Nコード】

N5452BA

【作者名】

毬藻

【あらすじ】

昔の約束を守るため、少年は少女の下へ帰ってきた……。専属サポーターとして。（初投稿です。誤字脱字や変な表現があったらソフトにご指摘おねがいします。）

プロローグ 1 (前書き)

ページを見ていただいております。
初投稿のため全体的にボロボロですが、よろしくお願ひします。

プロローグ 1

「あのね、きのう……」

木の下で、二人の子供が話している……
と、言っても男の子が一方的に話していて、女の子の方は聞いているのかいないのかよく分からない。

「それでにいちやんが……」

それでも、男の子は話し続けている。

その時、女の子が口を開いた。

「そのときの？」

意味が分からなかったらしい男の子は首をかしげながら聞く。

「なに？」

「そのけが……」

言いながら指をさした先には、左腕に巻かれた包帯。

「ああ、ちがうよ。これはさっきとうさんと鍛練したとき、いつかいよけそこねて……」

「いたい？」

一見無表情に見えるが、その紫色の目が包帯をじっと見ているのに気付くと手を振りながら言う。

「だいじょうぶ。ぜんぜんいたくないよ。
それに、すぐふたりにやりかえしたから。」
「ふたり…?」

女の子の目が困惑を表しているのに気付くと、笑いながら、

「きょうからにちゃんもいっしょに鍛練してるんだ。とうさんが、
いつもけっかがかわらなくて、つまないって。いっぱいれたっ
て、すごいよろこんでた。」

「ふうん…」
「……だからね。」

また前を向いた女の子だが、今までより真剣味を帯びた声音に顔の
向きをもとにもどす。

「もっと強くなって、かなたちちゃんがあぶないときはたすけてあげ
る。」

「いつでも……?」

「うん」

「どこでも……?」

「うん」

「………」

「どっしたの?」

急に黙った女の子を不審に思って顔を覗き込もうとするが、急に女
の子が立ち上がったことに驚いて尻もちをつく。

「帰ろっ」

そのままの体勢で見上げていたが、女の子の頬が赤くなっているのを見て、笑いながら立ち上がる。
そして、先に歩いていた女の子に小走りで追いつくと、手をつないで二人で家路に着いた。

……しかし、この穏やかな日々はあまり長く続くことは無かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5452ba/>

異能者の非日常

2012年1月14日23時53分発行